

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

当地域ケアプラザの担当地区は、ひざり地区(日限山1～4丁目)と丸山台地区(丸山台1～4丁目)で、令和6年3月末現在、人口は合わせて約15,588人(ひざり地区約8,686人、丸山台地区6,902人)、高齢化が進展し高齢化率は約30.5%(ひざり地区32.2%、丸山台地区28.7%)となっています。今後さらに高齢化が進展し、特に後期高齢者の割合が増加することが予想されます。

地域の各種団体、行政や社協等の関係機関と連携し、子ども・高齢者・障がい児者など様々な方を対象とした事業を実施すると共に、地域で行われている見守り・支え合い活動が更に活発に行われていくよう支援してまいります。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	☐	今年度より手あげした「横浜市チームオレンジ」のモデル実施として次の2点に取り組みます①令和5年度の地域ケア会議参加者からコアメンバーを集めた「チームオレンジ検討会」を開催し、地域で必要な認知症への取組を検討します②既存グループとコラボした認知症カフェの実施を検討します。
■	☐	地域交流活動と地域包括支援センターが共催で、介護予防の視点も取り入れた栄養講座と料理講座を開催することで、新たな人材の発掘を行い、グループ発足へと繋げます。
☐	■	ケアプラザフェスティバル開催に向け、昨年同様、地域の方と実行委員会を立ち上げ検討会を行います。また、昨年に引き続き、多くの障がい者作業所や支援学校に出店していただき、支援学校の2校には、出店に加えワークショップの協力もしてもらうことで、地域住民の障がい者への理解促進に取り組みます。
☐	■	ひざり地区では健康づくり部会などの5部会を設置し、第4期地域福祉保健を推進しており、各部会の事務局を地域ケアプラザ職員が担っています。引き続き事務局を担う職員間で情報共有しながら5部会の支援を行います。また令和6年度は、第5期計画の策定に向けた検討や取組を開始する年度となるため、区役所・区社会福祉協議会と連携の上、事務局としてサポートを行います。
■	☐	7月1日に開所する「上永谷駅前地域ケアプラザ・コミュニティハウス」とは、個々の相談支援や地域支援が切れ目なく行われるようしっかり引き継ぎを行うと共に、開所後も必要に応じて連携を図ります。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

チームオレンジ①検討会を2回実施、地域に向けた認知症サポーター養成講座を企画することになり、検討会も継続して行っていくこととなった。②OECカフェとコラボした認知症カフェ「OECカフェオレンジデー」を開催し多数の参加があった。定年後の男性をターゲットとした栄養と料理の講座(全3回)は60代～90代の男性15名が参加。10名が活動の継続を希望したため、自主グループ化に向けて支援を行って行く事となった。3名の新規メンバーを加え、13名で自主グループとして活動を開始。

ケアプラザフェスティバルは障害作業所を含む地域の様々な団体・グループの協力により開催。600名以上が来場し多くの方にケアプラザを周知することができた。

ひざり地区の地区別計画推進においては所長および職員が5部会の事務局を担い活動支援を行い、各部会活発に活動することができた。第5期計画策定に向けた地域の動きについても地区支援チームで情報共有しサポートを行った。

上永谷駅前地域ケアプラザ・コミュニティハウス開所に際しては事前に打合せのうえ引き継ぎを行い、開所後も共に地域イベント(丸山大ホコテン)に参加するなど、個別支援・地域支援において連携を図っている。

□ 区からのコメント

職員体制が厳しい中でも、地域住民のニーズに寄り添った丁寧な支援を行い、区とも細やかな情報共有・連携に努めていただき、感謝いたします。ケアプラザtheフェスティバルでは、地域のさまざまな活動団体と一緒に祭りを開催し、子育て世代を中心に多くの来場者で賑わい、普段あまり馴染みのない方々にケアプラザを知っていただく良い機会となりました。

認知症支援事業におけるアルツハイマーデー及び月間での展示において、地域の方に伝わる方法を検討しメッセージツリーを取り入れるなど、目を引く新たな展示方法を取り入れました。また、認知症カフェでは幅広い世代の参加を呼びかけ、認知症に関する展示も行い、地域からの反響もありました。着実に認知症の普及啓発を進めていただいています。

ケアプラザの協力医や近隣の医療機関とは繋がりや連携を意識した働きかけにより、相談しやすい関係性を築いています。地域課題やニーズの吸い上げについても、効果的に地域ケア会議を行えるよう会議を組み立てるなどの工夫をいただいています。各々の工夫や取組が繋がり、発展していくことを期待しています。